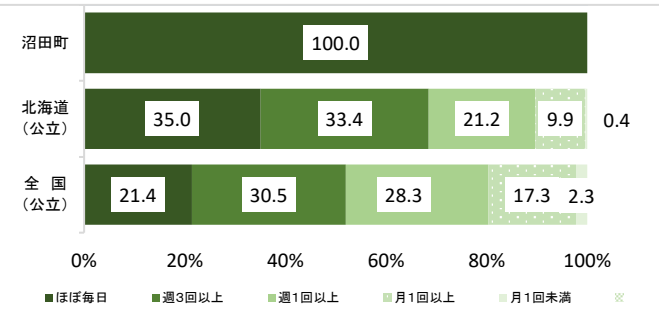


○ 質問調査の状況

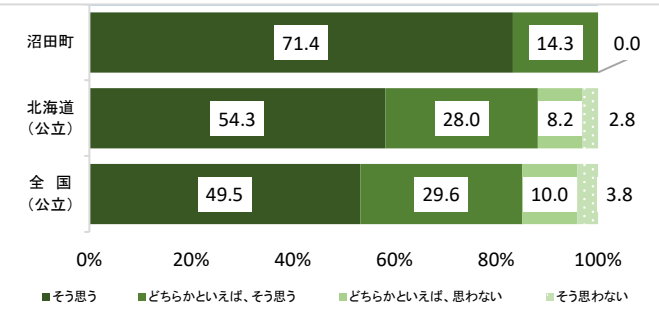
小学校
＜学校質問＞

児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



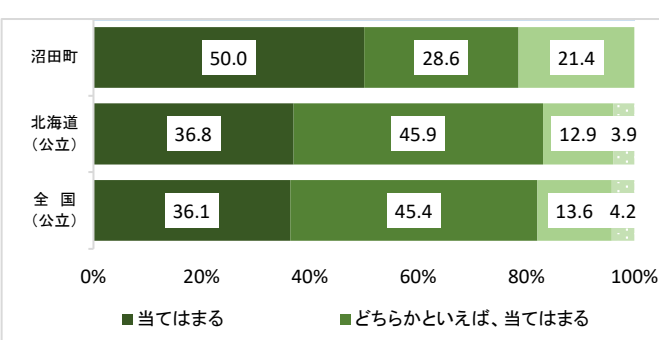
小学校
＜児童質問＞

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか



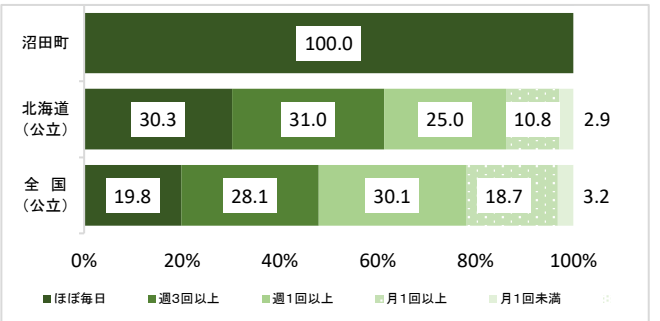
小学校
＜児童生徒質問＞

国語の授業の内容はよく分かりますか



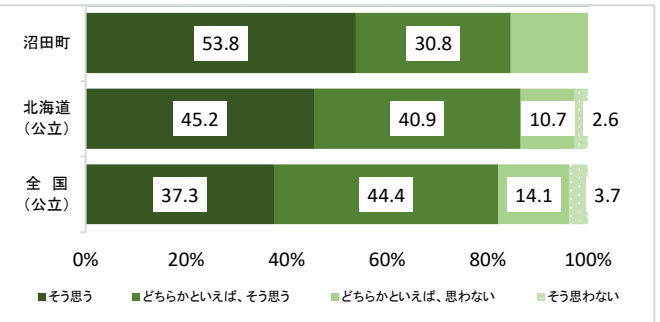
中学校
＜学校質問＞

生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校
＜生徒質問＞

総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか



中学校

○ 調査結果の分析

- 小中学校において、日常的に活用しているタブレットなどのICT機器を、自分の考えをまとめ、発表、表現する場面において使用することで、ICT機器で文章を作成することができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回っていると考えられる。
- 中学校において総合的な学習の時間でタブレットなどのICT機器を使って、うまく情報の収集、整理、発表することで探究的な学びを進めていると考えられる。
- 小中学校において指導方法の改善をはじめ読書習慣の定着、校内環境の整備、国語専科教員配置などの取組をすすめた結果、国語の授業の内容がよく分かるとの回答と国語の平均正答率が、全国及び全道を上回った要因と考えられる。

○ 今後の改善方策

- タブレットなどのICT機器などを活用し、オンラインで外とつながるなど多様な意見に触れることや多角的に物事を考えることを通して協働的な学びを進める。
- 明らかになった児童生徒の理解度、課題に応じて9年間を見通した系統的な指導方法の工夫改善に生かす研修の推進。
- 望ましい生活習慣や家庭学習の定着に向けた学習計画表の取組の継続や町の「学習サポート事業」等の学力向上対策事業の推進。